

# GWの恩恵も薄く、需要低迷や熊本地震の余波も見られる

## 5月の業界WEATHER

全業種平均



前年同月比

### 概況

GWによる好影響は少なく、全体として消費需要は減少傾向で、製造業ではコストダウン要請等の問題も顕著になりつつある。また、一部においては熊本地震による影響が散見される。

製造業	食料品		パンは好調時と比べ失速感が否めず、GWも熊本地震の心理的影響等で伸び悩む。製麺は調理麺の取扱いが増加するも、大手による寡占化が続く。食肉は昨夏の子豚出生数が減った影響で、と畜頭数が減少した。
	繊維・同製品		桐生織物は輸出向けが低調も、浴衣関連は例年通り順調に推移している。伊勢崎織物は小口商いが中心で取引条件は依然厳しい。繊維製品はデパートや百貨店の婦人服等の受注が大幅に減少し、関連事業所の廃業も散見される。
	窯業・土石製品		生コンは、各地区とも前年割れで厳しい状況にある。コンクリートブロックは好天により現場工事は順調も、個人消費の伸び悩みで需要が低迷している。砕石は景況感の悪化が依然として続き、設備操業度も低下傾向にある。
	機械・金属		親企業からの単価引き下げ要請や、金融機関の融資姿勢の硬化等で厳しい状況にある。富士重工関連は国内及び北米工場が高操業が続く。鍍金は熊本地震や自動車の燃費不正問題による操業停止等の余波が拡大している。
	その他の製造業		紙加工品は食品・自動車関連の好調が続いているものの、販売先からのコストダウン要請が厳しさを増している。印刷は官公需等の影響による稼働率上昇が見られ、原材料安による今後の利益確保にも期待している。
非製造業	卸売業		前橋卸は依然として人材確保難が続く。太田卸は酒類の購入層が価格を重視する傾向にあり売上を伸ばすも薄利多売の状況にある。農産物卸は気温上昇で野菜類のサイズが大きくなり安値相場となっている。
	小売業		中古車オークションはGW明けの仕入需要で出品・成約ともに概ね好調である。生花小売は母の日に期待するもGW最終日と重なり集客が伸び悩む。商店街はイベントによる一定の集客効果があり、新規出店も見受けられる。
	サービス業		温泉旅館はGWの休日の並びが悪かったものの好調を維持している。四万温泉ではふるさと納税の感謝券利用で安定的な集客がある。不動産取引は住宅ローン金利引き下げによる借換が増えるも、新規借入の動きは鈍化している。
	建設業		建設工事は昨年続く公共工事の減少に苦慮している。電気工事は電力自由化により多様化する顧客ニーズへの対応に尽力している。鉄構は先行きの不透明感が依然続くも、価格の落ち込みは一段落する見通しである。
	運輸業		全体的に荷動きの回復感は乏しく、帰り荷の手配に苦慮も見られる。燃料価格は上昇傾向にあり、今後の更なる値上がり懸念している。小型運送は全般的に依頼が減少するも、医療品輸送で全体の売上は増加となる。

※本調査は、情報連絡員56人が所属する組合の全体的な景況（前年同月比）です。

### 県内の主な経済指標

- 鉱工業生産指数(季節調整値) 112.5(前月比+5.5%)「県統計課・4月」
- 住宅着工戸数 1,210戸(前年同月比+29.1%)「県建築住宅課・4月」

- 求人倍率(季節調整値) 新規2.07倍:有効1.43倍「群馬労働局・4月」
- 大型小売店販売額 192億円(前年同月比+5.1%)「経済産業省・4月」
- 消費者物価指数(全国) 103.4(前年同月比▲0.3%)「総務省統計局・4月」  
(鉱工業生産指数・消費者物価指数は22年=100とした指数)